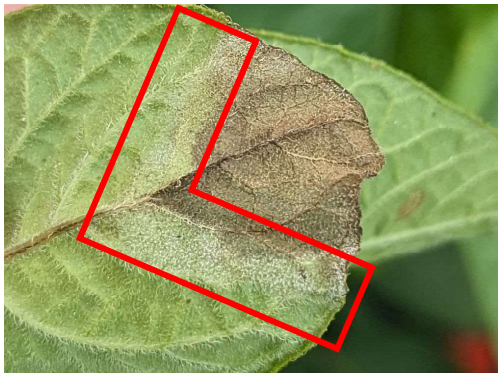
ジャガイモ疫病対策は万全ですか？

ジャガイモ疫病は，カビによる病害で，葉に褐色～暗緑色の病斑をつくります。葉裏側の病斑には霜のようなカビを見ることができます（右下図）。このカビは水中を泳ぐことができるため，ほ場内に発病株があると，雨などで急激に感染が拡大します。ひとたび発生・蔓延すると防除するのは困難であるため，発生させない環境づくりと予防が大切です。

疫病の初期病斑



葉裏に形成された遊走子のう
（病斑上に霜状のカビが見える）

持ち込まない対策

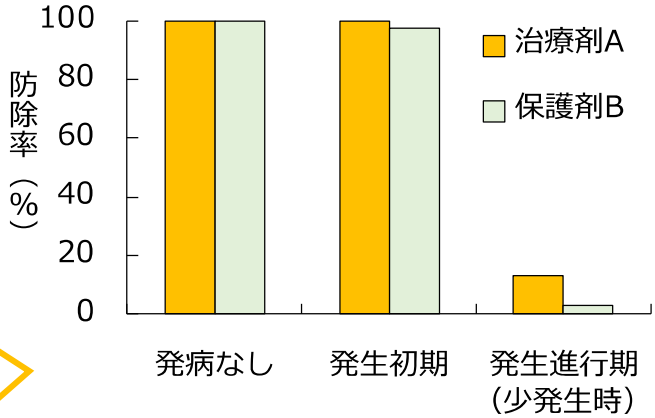
〇健全種子の使用，消毒を徹底する

増やさない対策

〇前年度発生の多かったほ場への植付は，避ける
〇**排水対策**を行う
〇殺菌剤を適期・適切に散布し，**予防に努める**

殺菌剤には，予防効果が高い「保護剤」と，予防効果に加えて治療効果を有する「治療剤」があります。

「保護剤」「治療剤」の両方とも，発病前や発生初期の散布では，高い防除効果が認められます。
　しかし，**発生進行後の散布では，その効果が大きく低下します。**
　予防的な散布がいかに重要か？が分かりますね。



疫病に対する保護剤及び治療剤の防除効果
※九州病害虫防除推進協議会成績書を一部改変

ワンポイント

前年作では，各地で軟腐病による腐敗いもが多く発生しました。
軟腐病は，土壌伝染性の細菌性病害です。主に，細菌が「傷口」から侵入することで感染します。
疫病等の病斑は「傷口」に該当するため，病害を発生させないことが，軟腐病対策につながります。